



市長就任のごあいさつ

筑西市長 須藤 茂

市民のみなさまと手を携えて

このたびの筑西市長選挙におきまして、無投票により、引き続き市政運営の舵取り^{かじ}役を担わせていただくこととなりました。改めて、その責任の重大さを痛感しております。

これからの4年間、全身全霊^{ぜんしんぜんれい}を傾けて取り組む覚悟でおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

1期目を振り返って

前1期の4年間は、厳しい財政状況下でありながら、長年の懸案事項でありました新中核病院建設の着工、スピカビルへの本庁舎移転も完了しました。

また、企業誘致活動を積極的に推進した結果、12社を誘致することができ、さらに行財政改革においては、窓口業務における手話通訳ができる職員の配置や休日開庁、第2次行政改革による18億円削減効果を創出することができました。

このほかにもトップセールスによる地元食材の対外へのPR、小中一貫教育の導入など、1期目

の目標でありました「市政の刷新・再起動」のたのめさまざまな施策を遂行することができました。

これもひとえに、市民のみなさま、議員のみなさまのご理解とご協力の賜物であり、職員の努力の結果であります。

3つの目標

現在、地方財政については、地方税収入の回復にまだまだ時間を要し、厳しい状況を強いられており、地方自治体においては、活力ある地域づくりを推進し、地方分権時代にふさわしい行財政運営の確立が強く求められております。

そうした中で、2期目においては次の3つの目

標を掲げ、「あらゆる世代が安心して暮らせる元氣都市・筑西」の実現に努めてまいります。

1つに、市民の命と健康を守る高度な医療機関を整備し、安心して暮らせるまちを目指すことです。

2つに、全ての市民が「魅力ある、住んでみたい、住んでよかった」と思えるまちの実現を目指すことです。

3つに、人口減少に歯止めをかけ10万人都市の継続を目指すことです。

6つの具体策

具体的には、6つの施策を進めてまいります。





1つ目は、新中核病院の早期開院です。筑西・桜川地域で二次救急までを完結できる医療体制を構築するため、平成30年10月の開院に向け、職員一丸となって、さらに力を注いでまいります。

2つ目は、全ての市民が安心して暮らせるまちの実現です。そのために、子育て環境を充実し、女性が活躍できるような施策を展開します。また、小中学校の教育環境の充実、高齢者や障がいのある人が生き生きと暮らせる環境・地域づくり、さらには災害に強いまちを目指した防災体制の強化に力を入れてまいります。

3つ目は、積極的な企業誘致です。引き続き企業誘致を推進することにより、移住・定住の受け皿として雇用の拡大を図り、若者が希望を持てるようなまちづくりを進めてまいります。

4つ目は、国道50号沿いへの「道の駅」建設です。道の駅を拠点として地域の活性化を図るとともに、本市の自慢である観光スポットやイベントを、平成31年開催の茨城国体とともに全国に売り込み、本市の魅力を広げてまいります。

5つ目は、道路交通網・公共交通網整備の推進です。玉戸一本松線の整備による市街地南環状線の形成、国道50号における玉戸地内の4車線化や川島新橋及び協和バイパスの早期着工、筑西つくばバイパスの整備などを推進してまいります。また、首都圏への乗り換えなしの交通網整備を検討してまいります。

6つ目は、徹底した行財政改革の推進です。指定管理者制度の導入や公共施設の適正配置を推進し、歳出の削減を図るとともに、「行政を経営する」という視点に立ち、市民のみなさまが必要とする行政サービスを将来にわたり提供できるよう、健全な財政運営に努めてまいります。

最重要課題は「人口減少対策」

最重要課題は、人口減少対策です。

近年、本市の人口は1年に約1,000人のペースで減少しています。人口10万人を死守すべく、現在進めている施策の推進はもとより、職員を始めあらゆる方面からアイデアをいただき、交流人口・定住人口の増加につながる対策を講じてまいります。

市民のみなさまと手を携えて

今、地方行政は非常に大きな変化を求められています。より質の高いサービスを提供できるよう、創意工夫することが大切です。

二宮尊徳の教えに「一円融合」という言葉があります。これは、全てのものは互いに働き合い、一体となって結果がでるという意味です。

市民のみなさま、議員のみなさま、職員としっかりと手を携え、ご理解とご協力を得ながら、筑西市が「大躍進」できるよう、戦略的に、あらゆる施策にチャレンジしてまいります。